

ノニ野村ハ四五度モ催促シテ來ル交渉ヲ此儘ズルズルノバ
スノハノバシテモヨイカ先方ノ言分ヲ受ケ^テレルコトハ頗
野出來ナイ

尙「ハル」ノ「ステートメント」ニ「大使及同僚等ノ努力
ニ拘ラス」トアツタカラ同僚等トハ唯カ國家ノ外交機密ハ
外務大臣カラ大使ヘ大使カラ「ハル」長官ヘト斷サルヘキ
ニ拘ラス多人數カ關係シテヘルカ如キハ不届タト野村ニ
詰問シテヤツタ

斯クシテ十二日（土）更ニ本問題ヲ討論スルコトニシテ散會セリ

七月十二日第三十九回連絡懇談會

對米國交調整ニ關スル件

一出席者 寺崎阿米利加局長ヲ加フ

ニ要旨

前同ニ引續キ對米國交調整今後ノ處理ニ關シ審議シタル結果、他
迄帝國最初ノ案ヲ堅持スルモ尙交渉ノ餘地ヲ殘シ、文句ノ修正ヲ
多少ニテモナシ得ルナラハ修正ヲシテ回答ヲナスコトニ決ス
之カ爲本日午後陸海海外三局長ニ於テ一案ヲ造ルコトトス
尙「ハル」國務長官ノ「オーラルステートメント」ハ之ヲ拒否スルコト
トナセリ

三審議ノ概要左ノ如シ

外相

前四云ウタ事テ盡キテ居ルカ更ニ附言スレハ、「ハル」長官ノ「オーラルステートメント」ハ讀シタ時ニ實際ハ直ニ返スヘキモノデアル。實ニ言辭同斷ナリ。十日間考ヘタガアノ様ナ「ステートメント」ハ米國ガ恰モ日本ヲ保護國乃至ハ屬領ト同一觀シ居ルモノニシテ、帝國ガ之ヲ甘ンゼサル限リ受理スヘキニアラス。拒否ノ理由ハ明瞭ナリ。我輩ガ外相タル以上受理出來ス。「ステートメント」以外ハ考ヘルコトハ出來ルカ、「ステートメント」ノ受理ハ出來ス。米人ハ弱者ニハ横暴ノ性質アリ、此ノ「ステートメント」ハ帝國ヲ弱國屬國扱ヒニシテ居ル。日本人ノ中ニハ我輩ニ反對シ、總理迄モ我輩ニ反對ナリナドト云フ者ガアル。

此ノ様ナ事テ、米國ハ日本カ變レ切ツテ居ルト考ヘテ居ルカラ、此ノ如キ「ステートメント」ヲヨコスノダ

我輩ハ「ステートメント」ヲ拒否スルコトト對米交渉ハ之レ以上繼續出來ヌコトヲ茲ニ提議スル

尙昨日情況説明ノ爲若杉ヲ返セト云フテヤツタ所、野村ハ自ラ歸ル、今ハ屠ツテモ何モ出來ヌカラ歸ルト云フテ來タカ、今野村ガ歸ツテ來テハ適當チナイノテ辛抱シテモラフコトニシタ

暫ク沈黙續ク、依ツテ參謀總長發言ス

參謀總長

外相ノ意見ニハ自分モ同感ナリ。然レトモ軍部トシテハ南方ニハ近ク佛印ノ進駐アリ、北ニハ關東軍ノ戰備増強

ト云フ重大ナル事態ヲ直後ニ迎ヘテ居ル。此ノ際米ニ斷
絶ノ操ヲ口吻ヲ洩ラスノハ適當デハナイ、交渉ノ餘地ヲ
殘スヲ妥當トス

外相

日本カ如何ナル態度ヲ取ツテモ米ノ態度ハ變ラヌト思フ。
米國民ノ性格ヨリ弱ク出ルトツケアガル。故ニ此ノ際強
ク出ルノヲ可ト思フ

内相

此ノ際帝國ハ何ントシテモ米ヲ參戰セシメヌコトガ大事
ナノデアアル。本來ナレハ日米共同シ今日ノ戰爭ヲ打切ル
コトガ宜シイト思フ。然ルニ此ノ儘フンデ進ンデ行ケ
バ五十年百年モ戰爭ハ續クカモ知レヌ。外相ノ常ニ云フ
日本ノ大精神ハ故一字カラ云フナレハ戰爭ハセヌガ宜シ

日本ハ益々主義ニモアラス、自由主義ニモアラス、理想
カラ云ヘバ今ノ戰爭ヲ世界カラ除クコトガ皇道主義テアル
ト思フ。米ニハ分ラヌカモ知レヌガ、戰爭ヲ止メルコト
ガ日本ノ眞ニ取ルヘキ事テアツテ、米ヲシテ其ノ權ニ仕
向ケルコトガ日本ノ取ルヘキ態度デハナイカ。此ノ精神
ノ下ニ米ヲ説イテハ如何。外相ノ云フ如ク米ノ參戰カ必
ス然リト云フナレバ、私ノ云フコトハ絶望ナルモ、外相
ハ「ルーズベルト」ガ引バルカラ國民ガツイテ行クト云
フガ、米人中ニハ戰爭反對ノモノモ居ル。日本ノ皇道精
神ノ權ニ持ツテ行キ度イ。外相ノ云フ權ニ「オーラルステ
トメント」ニ反響ヲ加ヘルコトハ宜シイカ、交渉ニ望テハ

窟ミ薄カモ知レヌガ右ノ考ノ下ニ努力シテモラヒ度イ。
尤モ大帝國ノ面目ヲ失セサル如ク骨ヲ折ツテモライ度イ
外交ハ外相ノ責任ナルコト申ス迄モナキコト乍ラ之ヲ一
筋ニスル必要アリ。之ヲ此ノ儘ニ投ゲウテハ腹背皆敵ト
ナリ、物資ハ缺乏シ大戦争ノ進行ハ出来ヌダラウ。「ソ」
ヲ打タネバナラスガ、現今ノ時勢ヲハ難シイ、他日ハヤ
ラネバナラス。南方モヤラネバナラスカ一時ニ之ヲヤル
ワケニハ行カヌ。日本ノ現在ノ狀態テハ物ヲ取り廻力ヲ
ツケル必要アリ。國際信義ハ固ヨリナルモ帝國ノ生存上
ヨリスレハ已ムヲ得ナイコトモ考ヘラレル。陛下ノ赤子
トシテ補助ノ爲ニハ宸機ヲ安ンジ奉ル必要アリ。今ノ人

カ悪イノナレバ之ヲ代ヘテモ参戦ヲ止メサシテモ宜シイ
テハナイカ

外相

全部内相ニ同感テアル。若干附言セハ、階級ノ情勢上米
大統領ハ引ヅツテ参戦ニ持ツテ行コウトシテ居ル、但ソ
レニ米人カツイテ行カヌカモ知レヌト云フ一線ノ望アリ。
而シ大統領ハ非常ニ無理ト思フコトモ何ントカ消ギツケ
テ居ル。三選モトウトウヤツタ、「ルーズベルト」ハ非
常ニ「デマゴ」ナリ。恐ラク米ノ参戦ヲ止メサセルコ
トハ到底出来ヌダラウ。帝國ハ三國同盟ヲ一貫シテ進シ
テ來テ居ル。而シ最後迄努力ヲ傾ケマセウ。日米ノ提携
ハ我輩若イ時カラノ持論ナリ、絶望トハ思フガ最後迄努

隨相

力致シマセウ。「オラルステートメント」ヲ拒否シタコトニハナラス。(ココニテ前ニ云フタコトヲ繰り返シ)日本ノ中ニハ分ラズ者ガ居ツテ、國家ノ爲ニ盡ス費リナノカ自分ヲ勝シテ居ル。自分ハ若イ時カラソウ云フヤツダト思ツテ居ツタ。ソイツラハ總理以下モ俺ノコトヲ悪イヤツト思ツテ居ルト想像シテ居ルニ違イナイ
寇カナダグテモ最後迄ヤリ度イ、難シイ事ハ知ツテ居ルカ大東亞共榮國建設、支那事變處理之カ出來ナケレバ歌目テアツテ、三國同盟ノ關係カラモ米ノ參戰ノ表看板ヲ表ニ掲ケサセヌコトタケテモ出來ヌカ。勿論「ステートメント」ハ國體ノ尊嚴ニ關スル事故外相ノ判斷通り拒否スルハ已

外相

ムヲ得ヌト思フ。而シ乍ラ日本人トシテ正シイト思フ事ヲ眞ニ傳ヘレバ精神のニ氣持カ移ルノテハナイカ
日本ニ其ノ位ノ事ヲ平氣デ云ワテ居ル位ダカラ措辭シテ千太シダコトハナイ

海相

海軍情報ニ依レハ、「ハル」長官等ハ太平洋ノ戰爭ニハ持ツテ行クマイト云フ考ガアルラシイ、日本ハ太平洋戰争ヲモス戦ニ考ヘナ居ルカラ、ソコニ本館復ヲヤル餘地ガアリハセヌカ

外相

何カ餘地ガアリマスカ、ドウ云フ餘地ガアリマスカ、何ヲ入レマスカ

海相

マ一小さい事だ

外相 南ニ兵力ヲ使用セスト云フナラバ開クダラウカ、外ノ事
テ何カアリマスカ

海相 太平洋ノ保全、支那ノ門戸開放等ヲ入レルコトガアリハ
セヌカ

外相 今度ノ案ハ第一案ヲ改悪故之ヲ引キモドスコトハ困難テ

アル。日本組ミシ易シト思フカラ此ノ機ナ手紙ヲヨコシ
タノテアル。原案ヲ堅持シテ交渉ヲ續ケルナラバ、隨ツテ
難ツテ敵リノメサレテカラ止メル様ニナルダラウ

尙「オラルステイトメント」相否ニ對シテハ作文ヲウマク書カザト云
フタノニ對シ寺崎米局長ハウマクハ書ケマセント違ヘ、外相ハ使
ガチヤント書ク、齋藤ノ案ヲウマクナホシ書カト違ヘタリ

外相 佛印ノ語ハ十四日ニ交渉スルニアラスヤ、故ニ十日日ニ

米ニ對シ「ステイトメント」ヲ拒否スルコトハ米ヲシテ與者
セシメルコトニナル、「ヴシー」ハ日本ノ交渉ニハ不
宜ナアラウ、此ノ據ナ事ニナレハ米カ佛印ヲ抱キ込ム餘

裕ヲ與ヘルコトニナル。早ク「ヴシー」ニ手ヲ打ち、最
後通牒ノ交渉ニ移ツタ時、米ニ返事ヲ出ス様ニシテハド
ウカ

外相 アマリ不埒タカラ直ク拒絶シタイト思ヒ、又野村カラ何
度モ催促シテ來テ居ルカマー 考ヘマセウ

軍令部部長 松岡君、日本カ何ヲ云フテモ態度ヲ變ヘスト云フノナ

レハ、外務大臣ノ云フ通りヤツテモ宜シイテハナイカ

海軍務局長

何ボカデモ努力スルト云フナラバ宜シイガ、總長閣下
ノ様ニフツツリト止メルト云ハレテハ、下ノ者ハ生事ヲ

ヤル熱ガナクナルデハアリマセンカ

軍令部總長

ソレモソウダ

(右ハ永野總長カ突然云ヒ出シタル事ニテ、本朝海軍側ヨリ提案アリタル帝國ノ取ルヘキ態度トハ全然相違スルモノニシテ、海軍務局長ハ軍令部總長ノ發言ヲ純曲ニ激問セシメタルモノト認メラル本日ハ平沼内相ガ特ニ長キ發言ブナセリ。而シテ總理ハ一言モ發言セサリキ)

七月二十一日第三十四連絡會議

近衛第三次内閣成立ニ伴フ初顔合ノ件

一、場 所 宮中大本營

自今場所ハ宮中大本營ト定メラル

二出席者

近衛内閣總理大臣

豐田外務大臣

東條陸軍大臣

及川海軍大臣

平沼國務大臣

鈴木國務大臣兼金堂院總裁

杉山參謀總長

永野軍令部總長